




唯識著「大機小機」日本経済新聞 朝刊 2023年10月6日朝刊を読む

「教員負担の軽減が必要はこと」を読む

1. (1) 教員の長時間労働が問題になっている。
(2) 中央教育審議会は緊急提言をとりまとめて、教員が置かれている状況は「我が国の未来を左右しかねない危機的状況」と指摘した。
- 
2. 文部科学省は 2020 年に出した通知で、教員の負担軽減の観点から部活への教員の休日関与の必要をなくすため地域のスポーツクラブなどを受け皿にすべきとしている。
3. (1) ただ、見過ごせない論点がある。
(2) 我が国で教員が授業に費やす時間は諸外国より短いのだ。
4. (1) 経済協力開発機構(OECD)の国際教員指導環境調査によれば、我が国の教員の1週間の勤務時間(中学校)は、OECD 平均の 38.8 時間に対して 56 時間と1位だが、教員がそのうち授業に費やした時間は OECD 平均の 20.6 時間に対して 18 時間と少ない。
(2) 小学校も似た傾向だ。
- 
5. (1) 論者が小中学生の頃の先生方は、そんなに忙しそうにはしておられなかった。
(2) 出来が悪い生徒がいれば、放課後に居残りをさせて勉強を見てくれた。
(3) 休日の校庭開放にも、保護者と一緒になって交代で生徒を見守ってくれていた。
(4) 生徒と向き合うことに多くの時間を費やしていた。
6. (1) ところが今日、先生は忙しくなる一方で生徒に向き合う時間は減っている。
(2) 原因は何か問題があれば、すぐ文科省の責任にする国会にある。
7. (1) 教育は国民誰もが関心が深い分野なので、何かあればこの時とばかりに国会で問題にされる。
(2) となると、文科省は実態調査ということで現場に報告を求める。
(3) その積み重ねが、先生が生徒に向き合う時間を奪い、世界で一番忙しい先生を生んでいる。
- 
8. (1) 教育で一番大切なのは、先生が情熱を持って教育に取り組むことだ。
(2) 部活も重要な教育の一分野だ。

(3)ところが、先生が生徒に向き合うこと以外に忙殺されては、教育に情熱を持ってと言っても難しい。

9. (1)明治の初め、政府の教育顧問だったデービッド・モーレルという米国人は「寺子屋は廃止すべきではない。

(2)教育のためにはこれほど有益な場所はない」と述べていたという。

(3)寺子屋の「教員」が熱心に指導していたからだ。

10. (1)今日、日本に求められているのは寺子屋の復活だ。

(2)具体的には義務教育をいわば公設民営にして、意欲を持った人が誰でも義務教育に携われるようにすることが一つの解決策だろう。



<コメント>

開倫塾の「学習型学童」をはじめとするすべての取り組みが、現代における「寺子屋」の復活につながるよう努力を傾けたい。

2023年10月6日（金）林明夫